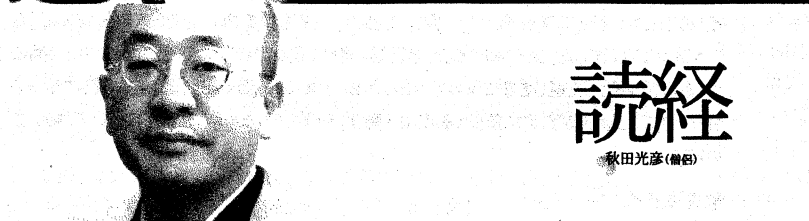




ギタ

内橋和久(音楽家)



読経

秋田光彦(俳句)



ハオキテマス

昼寝

ぼえ犬くん(無職)

特集「働く」とは

ハタラクヨロコビ

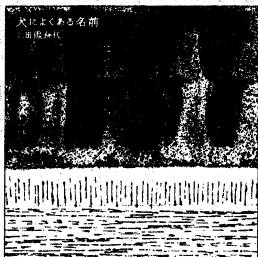
朝になるから、電車は走り出すのではない。
 電車を走らせるそのためのたくさんの行為があるからだ。
 いのちひとつは、あなたもわたしも同じこと。
 生きることは、この世界にそれぞれが関わるとのこと。
 働く という関わり方は 倫理のもとで、
 生きることを選ぶことだと思う。
 その人が自分の持ち味をいかせるように
 職業選択の自由があり その自由を獲得するために修練がいり
 修練するための、あきらめない意志がある。
 死んだ叔母が言った。「この仕事が自分にあってるかどうかは、
 30年つづけなわからへん」30年か。
 人生は賭けか、実験か。それでも、働くしかない。
 それなら、ヨロコビを見いだしたい。

「ぼえ犬くんのおしごと」

人間には人間の悩みがあり、犬には犬の悩みがあります。
 人間には人間のお仕事があり、犬には犬のお仕事があります。
 人間のお仕事にたくさん種類があるように、犬のお仕事にも
 いろんな種類がありますよ。ああ忙しい。

鶴町

日本橋の駅から8番出口の階段をあがると
 右側が鶴町だった
 わたしは 左に行かなければならなかった
 詩を書いても何にもなるわけではないのに
 詩を書いている
 書きながら 咳をして 川のまんなかで
 ぞつと立っている鶴の姿を思った
 白い襦袢を着た遊女だった
 百姓屋の5番目の娘に生まれて
 養いきれない両親によつて
 12歳で売られ 鳥かこのなかの
 鶴と亀のように 膝を折った
 鶴はまだ 川のまんなかにいる
 立っている わたしは歩いてる
 自転車に乗ったフィリピーナが鶴町の方へ
 向かっていっしんにペダルをこいでいる
 彼女の生まれた国の川も
 とうとうと流れているのだろう
 今日も 彼女が渡れないのは 道頓堀で
 今日も 彼女が渡れないのは 堺筋で
 今日も 彼女が渡れないのは 千日前筋だ
 むかし 島の内と呼ばれたこは
 遊女たちが逃げることでできないよう
 橋には明け方も深夜も二日中
 見張りが立っていたとさう
 鶴町行きのバスが来る
 隣を歩いていた人の携帯電話が鳴って
 隣の人は すくそばのちいさな玄関に入っていく
 その玄関の下駄箱のうえには 一冊の地図があり
 鶴町をさがして ページを繰る
 電話でも 何度も尋ねている
 けれど その地図に鶴町がないことを
 わたしは知っている
 鶴町に行くには
 左に行かなくていけない
 単純に左に
 そう 冷蔵庫の扉を丁寧に閉めるように
 わたしは右の手をさしだし
 あなたの左手をとり
 ゆっくりと唇のはしをあげ 鶴町へ誘う
 かつて 籠のなかにいた女たちが
 渡れなかった橋を渡って
 バスに乗って
 詩を書き
 朝をめぐりに



STereo/CD ¥1000 (税込)
 APM-1004 APM Label

犬によくある名前

詩と朗読 上田假奈代

- 1 犬によくある名前
- 2 昨日の花は今日の夢
- 3 潜るならこの空で
- 4 絵手紙
- 5 「どうなんだ」と言うから
「だから行くのよ」と言った
- 6 宇宙劇場
- 7 赤ペンで書く犬と
黒ペンで書く犬

99年から04年までの上田の作品をコンパクトな
 アルバムにしましたココラムにて好評発売中



STereo/CD ¥4000 (税込)
 APM-1003 APM Label

cocoroomにて発売中!!

【公式海賊版】

戦場写真 / あなたのうえにも同じ空がlive

disc1 R指定remix
 セキミハルnova-express
 featuring 上田假奈代
 本CDは「戦場写真」projectのために制作された
 マテリアルである

disc2 あなたのうえにも同じ空がLIVE
 詩と朗読 上田假奈代
 2004年1月10・11日ライブの会場内でマイク
 録音した音源を収録している

特集：「あなたにとって『働く』とは？」

私が通っていた小学校では、道徳の時間にNHK教育テレビの「はたらくおじさん」が使われていた。毎回いろんな職業のはたらくおじさんが紹介されて(何故かブルーカラーが多かったような…)、未知の大人の世界を垣間見れるのが面白かった。そして気がついたら私も「はたらくおじさん」になっていた。今回はそんな「はたらくおじさん、おばさん」連に、すばり「あなたにとって『働く』とは？」を聞いてみました。たくさんの方の話を集めたかったのと紙面の関係上、コメントを400文字以内にまとめてもらい、さらに、質問の受け取り方は自由です。と、すいぶん乱暴な依頼をしました。快く原稿を引き受けてくださったみなさまに感謝。いろいろな今を生きる「働く」が集まりました。

■セキミハル / ミュージシャン

"Put your money where your mouse is."「食べるために金を使え。」とは、私の尊敬する作家ウィリアム・バロウズ氏の言葉です。この言葉をよく考えてみましょう。「金」＝「働く」ではないこと。「金」はあくまで「働く」結果によるものであること。「食べる」＝「実生活そのもの」ではないこと。「食べる」事は「自分自身にとって糧になるもの」を差すこと。これらは和訳されているがゆえに余計にわかり辛くなっていますが、わたしの解釈ではそう感じています。では私にとって「働く」とは?と問われれば、おのずと答えは導き出されるような気がします。余談ですがもう一つ。"Business as usual."とも彼は言っております。

■樋口ヒロユキ / ライター・暗黒番長

「ぼえ犬通信」の編集者からメールをもらった。お前にとって「働く」とは何かをテーマに原稿を書け、とある。原稿料については言及がないから、おそらくタダで書けということなのだろう。俺はライター、つまり文章を書くことを仕事にしている。俺の仕事、つまり「書く」ということは、「ぼえ犬通信」の編集者にとっては「タダでやってもらって当然」の行為なのだ。だが、俺にとって「書く」ことは、生きるための対価を得る唯一の手段だ。「ぼえ犬通信」の編集者は、その俺にタダで書けと言う。そして「働く」とは何かを書けと言う。これは遠回しなイヤミなのだろう。紙に文字だけ書いて生きるなどという横着な生き方してんじやねーぞというメッセージなのだろう。つづく自分の職業がみじめに思えた。俺にとって働くこと、つまり「書く」ことは、タダで当然のテキストに対価をつけて売る、詐欺同然の商売である。つづく、みじめである。

■余吾康雄 / 芸術創造館管理スタッフ、NPO Recip理事、NPO remo理事

働く?結局、仕事なんてなんでもいいんです。何でも。当然の事ながら、どこかの大金持ちの息子とか、玉の輿にのらない限り、働かなくては生きてはいけません。仕事を見つければいいのだからと思います。多分。生きるだけだったらね。うむ、とりあえず、では、社会に放り出された時に、さて、何をしてお金を稼ごうか、って考えた時に、楽しい仕事なんて無い。っていうかそんな仕事なんて無い事に気付いて、気付いてからじゃ遅いんだけど、今気付いたんだからしょうがないし。どうせお金稼ぐんだら、自分が楽しめるのがいいな、って。結局、仕事なんてなんでもいいんです。何でも。何をやるかではなく、どうするか、と思っているので、どうやったら楽しくなるか、とかを考えてればいいんじゃないのかなあなんてと思います。つまらないミュージシャンもいればポップなバスの運転手がいるみたいだね。

■シャック三原 / イラストレーター

働くとは、自分のいやだと思ってることをすることでお金を払ってくれる人がいて成り立つという「できごと」です。ぼくは、今まで「働く」ことをあまりしてないので、ひどいもんです。考えるより、したらわかってくるという、そんなやつです。ちっちゃい時におぼえてると楽なことです。だいすきなひとができたからわかった。

■木村泰子 / グラフィックデザイナー・アートディレクター

私は広告を作ることを生業としています。発注を受けたらクライアントと打ち合わせをして、宣伝したい対象(それは商品だったり、サービスだったり、企業だったり、個人だったりするわけですが)の広告を企業の一員になったつもりで制作します。しかし宣伝するからには、その対象となる物の良いところや想いを上手く汲み取らねばならず、必然的に人と会って深く話を聞く機会が非常に多くなります。時には大会社の会長さんに会って、創業からの想いを聞くこともあれば、商品開発を現役でやっているような若手社員と会って発売までの苦労話を聞くこともあります。そんな信念や想いを持っている人と話すと、小説や映画を見るよりもずっとリアルで、自分の生き方も考え直すにはいられない日が沢山あります。なので私にとって働く事は、少し大袈裟ですが「生きる事」。糧を得ることであり、生き方を学ぶ場所であったりもします。そして何より、そこで成長した自分の心と比例して、趣味で描いている絵も少しは上達している気がするのです。これは鼻屑目かもしれませんが(笑)。

■池亀建治 / コルムや詩の学校に現れるスーツ姿で

人が食事をして生きていくために、食物を山で山菜を採って、海で魚を獲って、野原で動物を捕って、それらで栄養を摂る。それが働く最初になった。次に山菜を品種改良して野菜をつく食べきれない量を作り、海では舟で多くの魚を水揚げし、豚や牛を養育して、物々交換をした。物を作る、鉄で農機具、鍋、釜、木で籠、桶、家具と何だかんだ、皆は働いた。みんな快適になり欲が出てどんどん働いた。そしてややくいお金が生まれて判らなくなった。金貸しが金利で稼ぐ・働く?歌手がうまい歌で楽しむ・稼ぐ・働く?兵隊が人を殺して稼ぐ・働く?サラリーマンは会社に遅れず、机に座る稼ぐ・働く?人はどんどん欲望を広げ働くことは混乱 混迷カオス。新入社員の時間いた、その会社の中興の祖のお言葉「仕事を道楽にせよ」。

■泉谷洋平 / バイト君&フリーの学者

どんな誤りでも、そこから貨幣を铸造せよ (L.ワイトゲンシュタイン)

人生に必要なものは、勇氣と想像力とほんの少しばかりのお金だ (C.チャップリン)

働くことは生きていることそのもの生きていることが僕の仕事だから 考えていても遊んでいても物を書いても寝てもそれが僕を生かすことにつながるのなら、僕は働いていることになる…。だけど こんなことが働いていることとして受け入れられるほど世間は甘くもないし 想像力豊かでもないのです。だから 必死で生きてます 生きるのに必死です。いつか 僕がちゃんと働いていたこと 分かってもらえるように。ま、生きていれば 何とかなる。パンを買うのに必要なお金は、絶えることのない過ちから、いくらでも創り出せばいい。

■堀口初音 / 着付教室kimono*sweets主宰

子供の頃の私にとって働くとは、「まいど」と言い合うことでした。父が商売をしていたので、家に入出入りするのも商売人が多く、年中あいさつは「まいど」なのです。私はおっちゃんたちが「まいど」の声と共に持って来る、何かざわざわした感じが、とても好きでした。それは「動いている」という確かな活気でした。気が付けば私も自営業。動いて動いて動きまわりです。私もいつの間にか、あのざわざわした感じを身に付けているのかもしれない。働くのは、動くこと。そして動きを作り出すこと。着物が気楽に着られるような「動き」を作り出すために、私は毎日動いて、動いています。

■真弓創 / フリーライター

「働く」という言葉には「日々の糧を得る労働」という意味合いが多分に含まれている。私は、意味を切り取って限定するならともかく、単語に新しい意味を持たせるようなことをしたくない。「働く」とは生活を維持する行為のことだと考えている。多くの場合、経済的な側面において、生活を維持するのは当然のことだ。その行為や職種そのものに実践はない。だが働く姿勢には実践がある。文筆業を選んだ私の「働き」が誰かを不幸にしないよう、真摯に汗を流していきたいと願うばかりである。

■上田のぞ美 / NPO法人大阪アーツアリア・スタッフ / cocoroom cafe スタッフ

ずいぶん前ですが、2年近くブー太郎をしていました。毎日が夏休みのようで、だらけた暮らしをしていました。これじゃいかん、と一念発起して見つけたバイトが看板屋。時給500円で単純作業の多い仕事でしたが、「労働できるって素晴らしいなあー」としみじみ思いました。健康で働けるのはいいことです。そして、労働した後のビールは最高にうまい!!

■谷垣賢行 / cocoroomスタッフ他

働くという言葉を使って、ある人が僕に「ハタを楽にする事なんや。」と、教えてくれた事がある。僕にとって楽にしてあげたいハタの人達は誰だろうか?家族や恋人の顔を頭に浮かべ、全くその通りだと今改めて思いなおす。がんばろ。

■キムラトモコ / 刺青彫師見習い

相手のニーズと自分のニーズが一致するポイント(具体的に明確で可視のもの)を見つけること。見つけるためにするありとあらゆること。

■飯島秀司 / cocoroomスタッフ・ミュージシャン

(ある段階までですが)働くとは、自分の居場所を確保するための行為のような気がする今日のご。経済活動の根底に脅迫観念がいてまわる限り、なかなか幸せは掴めないのではありません。とほほ。

■生きる仕事 / 上田假奈代 闘う詩人・詩作家

子供の頃、大人の仕事が見えなかった。そして、働きはじめて数年もたって、仕事をとおして、ほんの少しだけれど社会との関わりを知った。友人に「仕事」をテーマに取材させてもらい書きおこす。時には公開対談を行なう。その対談のあと、また取材し文章におこす。これを「生きる仕事シリーズ」と名づけ、ライフワークのひとつにしようと考えている。身近な人が、仕事について話るとき、わたしはその横顔を見知らぬ人を見るような思いでみつめる。その人のまなざしは、仕事への「誇り」につながっていく。職種に依拠しない、人が他者の人生と関わり、見いだした未来への漕ぎ出し方が、その人の口から溢れ出してくる。それを誰かに伝えることばにしたいとおもった。なぜならそれは、余計なお世話かだとも思うのだけれど、まだわたしが幼かった頃、社会そのものにおびえて立ちすくんでしまった時に、であいたかったことばだから。現在、わたしは「詩」を仕事にしている。ところが、詩が仕事として成立している例が身近にないため、何をどうしたら仕事になるのか、皆目わからないのである。これは詩の仕事になるだろうと、おもいついたことを、可能性と不可能性の両方をこの身につかっただま、試してみるしかないのだ。こんな仕事を誰かに頼まれたわけではない。自分の意志、事情によるのである。ゆえに闘う相手は固定観念で、あきらめそうになる自分自身である。この真夏も実験人生街道ばく進中。

■川崎まみち / cocoroomスタッフ

単純に仕事のことだと思った。生活の糧を得るための。今回の原稿テーマを決めてからずっと考えているのだけれど、時間をかけて考えるほど色んなことが出てきてわからなくなってきた。日々の生活のなかから「働く」だけを切り取って考えるのは難しいな。すべてが繋がっているから、いつの間にか私の好きな事や好きな人のことばかりをおもって「大切な人がいるというのは幸せなことだなあ」なんて。最後にはここに行き着くんだから、つまりは「生きていること」 そう思うと、たいくつだと感じていた仕事も楽しくなってくるからなんとも不思議。

EVENT PREVIEW

cocoroomの10月NPO法人化を記念して!?(あくまで予定です)
夏から秋へむけてのイベントを一足早くご紹介します。

お問い合わせ、チケット予約はすべてcocoroomまで
tel. 06-6636-1612 / tel&fax. 06-6636-1662
e-mail. cocoroom@kanayo-net.com

大阪現代芸術祭プログラム

「あなたとわたしの間に」"響きあうところ"

僱侶・秋田光彦、音楽家・内橋和久を招き、詩人・上田假奈代がホストをつとめるスペシャルLIVEイベント。異ジャンルの三人がであり機会をつくり、コルムームのテーマのひとつ「こえ」をもちいたコラボレーションを行います。説法と読経の声、ギターの声、詩の声という三様の表現がからまり「響きあうところ」をステージに展開。他者とのあいによって広がり深まる表現をとおして、あなたのところに響きあいます。

■日程：2004年9月11日(土) 開場18:30 開演19:00 終演21:00(予定)
料金：前売¥2,300(drink別) / 当日¥2,800(drink別)
会場：cocoroom / 主催：大阪市・(財)大阪都市協会 / 企画立案：cocoroom (NPO法人申請中)



内橋和久 (音楽家) 秋田光彦 (僱侶) 上田假奈代 (闘う詩人・詩業家)

犬によくある名前

詩人・上田假奈代と24人の文字意匠家たち

展覧会「犬によくある名前」

日時：2004年7月12日(月)～8月14日(土) *最終日は21:00まで
会場：クリスタ長堀・西側のサテスタ広場からフィッシュ広場までの12本の支柱

ライブ&トーク「あなたとわたしの間に」

日時：2004年8月1日(日)
会場：クリスタ長堀・滝の広場 17:00～
出演：上田假奈代(朗読)・山口智(ハンマーダルシマー)・杉崎真之助(デザイナー)ほか

●24人の文字意匠家たち

カズオモリ(TUNE GRAPHIC ENTERTAINMENT)、木村泰子(アザ・デザイン)、
キリマハルミ(キリマデザイン事務所)、高橋善丸(広告丸)、ツボイヒロム(graphic groove)、
南部俊安(テスト)、神田友美(AZビジコム)、藤野真弘(ウェイヴインターナショナル)、
高田雄吉(CID研究所)、関根祐司(関根デザイン事務所)、杉崎真之助(真之助事務所)、
今北紘一(今北デザイン研究所)、松田ゆうき(オデオンデザイン)、初田隆正(Idea / アサヒ精版印刷)、
半浦哉子(188)、シマダタモツ(シマダデザイン)、東學(188)、タニオカシゲキ(z'est)、
神谷利男(神谷利男デザイン)、小林正美(小林意匠設計事務所)、祐成美代子(A_V_S_T_)、
リウウリンド(リビドゥ&リンドグラフィカ)、藤田隆(サントリー)、ヤマモトヒロユキ(pictoINC.) (敬称略)

●クリスタ長堀

大阪市中央区南船場4丁目長堀地下街8号
tel.06-6282-2100(代表)
http://www.crystanagahori.co.jp

作品を貼ったところから
通りすがりの人が 柱に近づき
興味深げにみてくださっていて
「道」の展覧会らしさを実感しました

思えば 10数年前
京都大学の塀800メートル程に渡って
見張りをたて 一晩で 蛇の落書きを
(本人はアート作品のつもりでしたが)
行なった悪ガキが こうして 公道で
りっぱな展覧会ができたのも
みなさまのおかげです

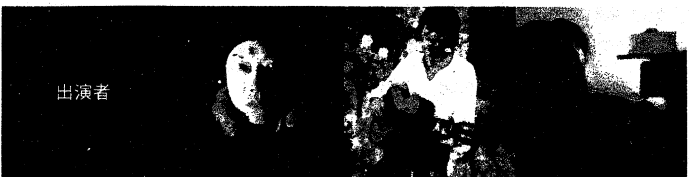


PPPPCBNスペシャル

reading THE BIG ISSUE

駅前で交差点で街角で、一人のおじさんがカラフルな冊子を掲げ販売しているのを見かけたことがあるかもしれない。知っていたら不思議に思わないけれど、知らなかったら、何やってんの?と思うだろう。その雑誌はホームレスの仕事をつくり自立を応援する「THE BIG ISSUE」。1冊200円。そのうちの110円がおじさんの手に入る。この仕組みは、ホームレスの仕事をつくるだけじゃなく、とわたしは思う。わたしたちが他者という世界にたいして、どう関わってゆくのかという、静かな勇気を街角で手にいれることだと思うのだ。

■2004年10月9日(土) 17:30open 18:00start
1700円「THE BIG ISSUE」最新号付き(+1ドリンク)
※収益の一部をTHE BIG ISSUEに寄付します
会場:cocoroom
制作:cocoroom (NPO法人化申請中)



ウラン・ジクスー (ボイスパフォーマー) 勝野タカシ (歌・ギター) セキミノル (nova express)



バンツバンツバンツ (ジャズブルース) つき山いくよ (パフォーマンス) LOVEDLOVED (純愛ロック) 上田假奈代 (詩人)

●「THE BIG ISSUE」そのしくみとめざすもの

「ビッグイシュー」は英国で大成功し世界(24の国、50の都市・地域)に広がっている、ホームレスの人しか売り手になれない魅力的な雑誌のことです。ビッグイシューの使命はホームレスの人たちの救済(チャリティ)ではなく彼らの仕事をつくることにあります。例えば大阪の野宿生活者の約8割は働いており、過半数の人は仕事をして自立したいと思っています。「ビッグイシュー日本版」は彼らが働くことで収入を得る機会を提供します。具体的に、最初は一冊200円の雑誌を10冊無料で受け取り、この売り上げ2,000円を元手に、以後は定価の45%(90円)で仕入れた雑誌を販売、55%(110円)を販売者の収入とします。

http://www.bigissuejapan.com



「きものフェスタ」 2004年8月8日(日)

ゆかたで Go×2

時間:15:00～20:30
入場料:¥1000(+1ドリンク)
会場: COCOROOM

きものに興味あるけど、どうしていいかわからない 何一も
きものを着始めて、もっと詳しくきものを知りたい 何一もに
きものが好きでたまらないきもの 何一もが「きものフェスタ」を開催

きものいろいろ相談会 15:00～19:00

きもの道何十年のきもの相談員があなたの質問にこたえます

きものフリーマーケット 15:00～19:00

お道具からきもの、ゆかた、アンティークきものまで
※販売ご希望の方はご連絡ください
(1点でも可、出店料なし、売上の20%を申し受けます)
master@nisijin.com (佐々木)

ゆかた着付け教室 17:30～19:00

プロにならえば、ピシッと、パリッと着くずれしません
¥2000 (予約優先、予約はコルムームまで) 講師:堀口初音
※浴衣とお道具一式、下駄もご持参ください。
※そのまま浴衣で催しをご覧ください。

きものでポン! 19:30～20:30

ファッションショーみたいに、きもの姿・ゆかた姿で
舞台上に立ってみよう あなたのきもの体験をお話ください
ナビゲーター:堀口初音、上田假奈代

きものが好きでたまらん、という女子たちが集まって「きものフェスタ」を開くと言う。イベント制作未経験。見知らぬ人同士。どうなるかと危ぶんだが、月に1回会議を設け「きもの初心者の方にどんな情報がほしかったか」とか「どんな催しがあれば良かったか」を書き出し、コンテンツを固めた。中にはデザイナー、ネット精通者、着付けの先生、フリマ出店経験者など、適任者がたくさんいた。夜にきもの姿で会議しているのは、見ている実に楽しい。噂をききつけ、きもの好き男子が「僕も行きたい」と言う。もちろん大歓迎。会議のあと「きものって、自己解放で自己肯定なんよな」ときものガールズが呟いた。

PPPPって、何よ

P.P.P.P.C.B.N. 何のPだかよく分からない。Pの持つ音感に混沌だ。主旨は国籍・人種・性別・思想・信条・信仰などにとられることなく、新しい表現とは何か?を模索し続けるプロジェクト。だったはずだが、あつという間に全国の変人さん大集合に変貌した。現在、出演者はもはや人類というカテゴリに収まらない。ブルーシートと同じ色の21世紀の空の下で、すでに世紀末の風情あふるるフェスティバルゲートの一室で、昨日と今日を異ならしめるために、わたしたちは表現する。現在を絶えず名づけようのない未来にむけて挑発するというしかたで、既知から未明の未来へ漕ぎだすために。

■P.P.P.P.出演者リスト 5/11~7/13

※各出演者のレビューはcocoroomのウェブサイトに掲載しています。

- 5/11 井上義昭(音響系ギターパフォーマンス)、花野生涯(ピアノ浪漫)、西川文章(ターンテーブル)、SUMIDA(坊主二人組)
- 5/25 丘田イージマン(情感過剰)、吉田大吉×井澤八段(シタルvs陶芸)、狐天狗(わいわいサクソとスタスタ太鼓)、サンザール(見猿・言わ猿・聞か猿)
- 6/6 井之上貴一(フォークソング)、芝居紳士(路上芝居)、びびんげ(変態三人組) Polyrythm(藤澤はづき×若旦那康家)、鉄割アルバトスケッチ(オフビートパフォーマンス)
- 6/22 良元優作(パンツくん)、梶谷友美(小説)、Echo light(音響系ギターパフォーマンス)、三田村管打団!(ギャルプラス?)
- 6/22 「ヒゲ親父の夜」 砂十島NANI×雀吉(あほドラム)、もぐらが一周するまで(あこがれ音楽) SUMIDA(ぼうず二人組)、一楽備光(ドラビデオ)、上田ヒゲ代(ひげ詩人)、長野宏子(パン屋からの刺客)、坂本ぶでいんぐ畜(COCOROOMのひげ)
- 7/13 悠々劇的(反応反射 速攻即興)、STYLE(井上×塩入:同級生コンビ)、ウイ、チャオ(真佐子帰ってきてくれ)、カコイシハル(electric guitar)

ひげ親父の唄~どうだろう御殿2~

夜遅く、P.P.P.P.ディレクターの巨くんがやってきて言う、「P.P.P.P.にとって大事なのは、ブックキングという経営的形態なのか?ジャンルを越えた表現を切り開いていこうという意志の部分なのか?どうなんですか?」うむ、やはりcocoroomは「どうだろう御殿」なのか。巨くんの質問にはその時々に返答したのだが、その後、時々考えこんでしまった。今ならこう答えると思う、私たちのやっていることは、「アホと世間のすり合わせ」である。むっとされた方は、アホ=初期衝動と読み替えて欲しい。ある日のcocoroom、P.P.P.P.メインディレクターのぶでいんぐ畜が言う「わたしイベントをします。タイトルは「ひげ親父の夜」です」上田と私はずっこけた。そしてその日から、ぶでいんぐ畜のcocoroom泊まり込みが始まる。出演者集めのため何本もの電話・メールを打つ。とても手間のかかるビニール製のフライヤーを一枚一枚プリントアウトし、トナーが剥がれないよう透明ラッカーを塗る。プリント時の熱で曲がったビニールをレングでぎゅうぎゅう押しさす。俺は料理で出演するのだと料理の仕込みも並行して行われていたようだ。cocoroom内部でも、ぶでいんぐ畜の行動は謎めきすぎて把握できないので有名である。そしてある夜、ステージの上に珍妙なドラムセット。ペードラにヒゲが描いてある。ビール樽のフロアタム、鍋スネア、鍋ブタシンバル。ハイハットは、蒸し器にドリルで穴を明け、踏むと本当のハットのように上下に動き、音がする。すげえ。「一楽さんのドラビデオの素材にしてみよう」のだそう。ビデオ撮影が始まった。巨体に無精髭、白衣のぶでいんぐ畜が、ねぎスティックをふりまわし、ヒゲドラムをどつきまくる。生魚を胡弓のように弾く(コロコロ)。にんじんマイクにシャウトする(真似をする)。フライパンをギターがわりにジョンレノンのようなポーズでリズムを刻む。セキさん協力のもと完成したビデオ素材は、ぶでいんぐ畜がいっぱい状態である。ああこんなのを人様に見せるなんて。。これらの無茶苦茶な努力の末、迎えた「ヒゲ親父の夜」は凄い内容だった。エキセントリックさとユーモアが同居した出演者達、こころのこもった料理、ひげパン。しかし、イベント収束的には破綻していた。その日粉れもなくアーティストだったぶでいんぐ畜は、この夜の責任をとる覚悟をしたのだろう。(後に某ア○ムで借金をしたことを知った。)そんな中、ふるまわれる料理を前に、上田假奈代が瞬発的にカンパをつのりだす。つけ髭をつけ、小さな女の子のような声でバスケットを持ってお願いに回る。最終的にここで起こることの全てをひきうける責任感が上田にそれをさせるのだ。看板のぼえ犬が見ている。初期衝動、なんて危険なんだろう。しかし、現状を打ち破り、新しい何かを生み出すには、きつと必要なもの。暴れ馬に振り落とされないように、無い頭をひねり、狡猾に闘術を身につけたい。なんせ毎日「アホと世間のすり合わせ」ですから。

P.P.P.P.C.B.N.<表現>について

紅1点ブックキング担当:木村ともこ

私たちにとって”外部”とか”他者”って誰なんだろう。<表現>は常に自分の敵や外側に対して自分を伝えるためのもの。自分を理解しないものに対して、理解してもらえ方法を探して自分を知らしめるためのもの。それに気づいているのは本質的にマイノリティだけだ。日本の中に果たして”外部”や”他者”があるのかなのか、言わずもがなの結論に絶望してしまうが、そこがきつとスタート地点なんだろうと思う。だから孤独で孤独で心が干上がってしまう毎日を送るその君!! それはとてもまっとうなことなんだよ。私はとてもそんな風にして生きれないけれどあなたがあなた自身をむき出しにしてそこに立つ瞬間、私は感動していつも心が震えてしまうんだよ。

“総合的”であることが目的ではない。その先にあるものへ②

報告者:阿佐田亘(a.k.a.大和川レコード)

イベント自体が“総合的”である目的は…“出演者の芸”という対象の“提示の仕方、置き方”、これを実験できる処にある。さて、本テーマの後半だが、この場合、イベント全体における“出演者の芸”は、文脈中の一文の意味に例えられる。つまり、その文脈如何で文章の持つ意味が変化するように、前後の共演者のパフォーマンス如何によって、自らの表現が、甲にも乙にも捉えられるということ。これは1ジャンル、1出演者による単独企画では味わえない総合イベントならではの長所と言えるであろう。

アーティストという存在は、極めて個人的な考えを公の場で発表することで、はじめてアーティスト足りえる。そして本来は、その“公”というフィルターにより、作品の解釈は観客に自由に委ねられるべきなのだ。しかし、その自由な認識というものが、我々の気がつかない間に、アートにおける常識や固定観念によって妨げられつつあるのもまた事実なのだ。

だからこそ、P.P.P.P.C.B.N.で僕が試したいのは、総合的に表現をレイアウトすることで、1つの表現ジャンル(音楽、美術、映像、詩、ダンスetc…)での固定観念を壊し、観客の頭の中に先行するイメージをスライドさせてみる、組み替えてみる、という作業なのだ。

“狂言”に出願挟まれての“フォークソング”が、なんだか錯綜しているかに見える様。実際に困惑、錯綜しているフォークソングの某氏…。ああ、何か考えているのかな…。最終的には、アーティスト自身も自らの表現を再編成できる場、そのような場となるイベントにしていけたらと思う、今日この頃である。

CHIMES

—prick up your ears—

川崎まみち

Cocoroom booking exhibition

6/1(火)~27(日)「魂の波動~オアネスの気持ち~」ゾラサン(イラスト)

細細ペンで繊密に描かれた作品は「エッチングですか?」とよく聞かれました。モチーフになっているのは、刃物、目玉、人魚、虚ろなまなざしの女…観る者を拒む閉ざされた心のような。cafeの片隅ではゾラサンの「あなたの曼陀羅を描きます(¥500)」も。三角、円、四角、十字、螺旋の5つのモチーフを手掛りに深層心理を探るというもの。かなり胡散臭く怪しい感じなのに意外にも「当たっている!」と大好評。なかには人生相談会となった人も。ゾラサンに世界にひとつしかない曼陀羅を描いてもらって、みんな晴々とした表情で帰っていかれたのが印象的でした。7/1(木)~14(水)「私は生きている~血液グラフィック日記~」木村泰子(グラフィックデザイン)と藤井弥枝(コピーライター)との共同制作。日々の感情を血液で表現したという作品は、真っ赤な画面に無数の黒い点、藤井のコントラストと笑ったり驚いたりして飛び跳ねている。若々しい素直な生命力が伝わってくる。意志の強さ。まっすぐなまなざし。シャープでいてあたたかい。また木村は、7/12(月)~8/14(土)クリスタ長堀でおこなわれる「犬によくある名前~詩人上田假奈代と24人の文字意匠家たち」の展覧会アートディレクションを務めるとともに作家としても参加している。

今後の予定 開館時間12:00~22:00 入場無料

■7/18(日)~8/1(日)

AshArtAlbumVol.01「ラクガキバタフライ」/Ash-irica(イラスト)

■8/5(木)~8/29(日)

服部聖一写真展~上田假奈代「日々」~/服部聖一(写真)

※同時開催「第二回~大人と大人じゃない人の夏休み絵日記展」

■8/31(火)~9/12(日)

たそがれ あかつき/こくふあい(日本画)

■9/14(火)~9/26(日)

中西恵子展(仮タイトル)/中西恵子(シルクスクリーン、インスタレーション)

■9/28(火)~10/10(日)

勝田真由ファイバーアート展 「inside map」/勝田真由(ファイバーアート)

於集電脳女流詩人
交流向上百花繚乱
詩的空間月毎更新
隨時求新同胞以愛



Web 女流詩人の蘭の会

<http://www.osrim.or.jp/~orchid/>

poenique

<http://poenique.jp/>

日本最大級の総合詩サイト 詩の寄り添う場所。

コカールームの私の机の引き出しには、DATテープの山がある。The Lighthouse Tapes。視覚障害者施設でのワークショップの様子が取られたこれらのテープには、日付と参加者名だけが記載されており、2週に1度の土曜の午後、私たちが過ごした90分の記録として存在している。当初はあくまで記録用との意図だったので、なかなか聞き直すことがなかったのだが、ある午後ワークショップ報告書作成の為、ヘッドフォンで独り音源に向かい合った私は、不思議な心理体験をした。マイクの位置を調整するガサガサした音の後、重い扉が開く音がする。ガー。「こんにちは」「こんにちは」。テープが進むにしたがい録音されたものが私の手を離れていく。機械のホワイトノイズと周囲の雑多な環境音、そして交わされる会話と声が、折り重なる残響の中で震えながら、共振している。私は私の心の中の海深くを彷徨っているような感覚にとらわれていた。これらのテープは、ワークショップの最初から終わりまでをそのまま録音しているだけなので、基本的に地味で、凡長な時間が多くを占めている。しかし目を閉じて、取られた音に身を任せて、視覚イメージをもった美しいヴィジョンを感じる事が出来た。これはスタッフと視覚障害者達によって創られた集団作品と言えらるかもしれない。私はテープに刻まれた時間の繊細なニュアンスに、自分達のやっていることの脆さを自覚し、途方に暮れていた。ライトハウスレポートの第3部は、これらThe Lighthouse Tapesに添って筆を進めていきたいと思う。(つづく)

Books Archives -声が明日のページをめくっていく-

大人度の高い企画だ。しずかな時間。小説を朗読している、のを録音している、のをその場で聴いている夜の企画BA。月に4回、ほぼ毎月曜日。仕事帰りに立ち寄れる8時半から始まる。席につき、目を瞑る人もいれば、いっしょに景色をどらえようと目をひらく人も。読み手の指がページを繰るのを見つめる人も、白紙の紙をとりだし、ペンを走らせ何かを描いている人も。めいめいのブックスアーカイブス。物語はそれぞれのところで、明日へ訪れていく。



■ブックスアーカイブス参加者のレポート

6/7 吹雪の星の子どもたち (読み手:上田假奈代) / 勝田真由
朝、きれいに晴れていたと思いきや、夕方には雨が降るという、梅雨らしい忙しいお天気の中、第九夜は始まりました。本格的な夏の到来を予感させるように蒸し暑く、私は少し落ち着かない気分、せわしく席につきました。「時間の秤が傾きをとめ、永遠に釣りあったり、かすかにいつまでもうろえているような、世界じゅうから音という音が弾発しきって、あとにはただ、伸びたり縮んだりするゆるやかな仄明かりの環のみが、眼にみえるかみえないかの速度で波打ち、あたりひろがってゆくだけになったかのような…」とこんなふうにしてこの「吹雪の星の子どもたち」は一つの文がとも長いのです。次々と展開されることばは詩のように、突然、こちらの予想をふいに裏切られるような感じがします。一言、一言を耳で追っていると、どんどん置いていかれる感覚になると同時に、なぜか妙に心地良かったりもします。時間の秤ということばが印象的です。時間を秤に乗せることができるとしたら、何のために使うだろう?どんな時間とどんな時間に乗せるだろう?釣り合うのか、釣り合わないのか、想像は膨らんでいきます。思い返してみれば、朗読を聞くという体験は、ありそうではとどろきませんでした。このブックスアーカイブスに何回か参加して、その帰り道はなんとなく晴れやかな気分です。考えてみればそれは当然かもしれません。幼い頃、毎日、眠る前に両親が絵本の読み聞かせしてくれたのを思い出します。そんな感覚を追体験しているのでしょうか。

5/31 「サラダによせて」(読み手:ウワン・ジクス) / 山本むつみ
ライブで朗読を聴くというのはなかなかスリリングなものだウワンさんは今日もそこに居合わせたひとを別世界へといざなう「においを感じて欲しい」と言ってはじめられたその日の朗読は広大なアラブの自然やそこに生きる人々の息吹肌にあたる熱い空気までも感じさせた。ウワンさんの口から発せられることばは能動的に私に働きかける。ことばに誘発されて私の中の記憶がいっせいに反応する。いつか見たアラブの写真 毎日報道される暗いニュース。ことばが五感を刺激する。ここに来るたびにことばの持つちからというものを考えてしまう。口から発せられることばには書き文字にはない緊張感がある。そこにはライブ会場に居合わせた人だけが共有するコトのできるリアルな状況がある。

- 今までのおはなし
- 4/5, 12, 5/10, 24, 6/7, 21, 7/5, 12 4/19「うつつ」松井美耶子
 - 「吹雪の星の子どもたち」山口泉 4/26「えくぼ」伊集院静
 - 読み手: 上田假奈代 5/17「UFOが錯路に降りる」村上春樹
 - 5/31「サラダによせて」わたなべなるとし
 - 6/14「昭和恋々」山本夏彦
 - 「あのころ、こんな暮らしがあった」久世光彦
 - 6/28「僕の恋、僕の傘」ジョン・マッキヤハン/訳: 柴田元幸
 - 7/20「ばくのボールが君に届けば」伊集院静
 - 読み手: ウワン・ジクス

もーれちゅ! マウス絵道場!

~ 詩のオーケストラサイト共同企画 ~

絵: のぞ

ある日やってきた子猫は、
みゃあみゃあ鳴いて、
人間もいっしょになってにゃあにゃあ言って、
夏の床で伸びている。



日本国憲法

講談社学術文庫 ¥560
そういえば憲法知らんわというあなたへ:★★★★

ごめん、日本国憲法。小学校の社会で習ったきり、すっかりその存在さえ、忘れてたわ。議案改憲いろんなことを聞くけれど、そもそのもととをわたしは憲法をよく知らなかった。よんでみた。声にだしてみた。へんな言い回しもあるね。よくわからんところもあった。前文。英語でpeopleと書かれている。これは「わたしたち」なのか「国民」なのか。国民って誰よ。疑問もあつた、でもね、前文は祈りなのだった。希望。希望を捨てて歩けないから、前文なのだった。条文は退屈に長いなあと思った。けど、これも暮らしの要になる規則根本なのでしょう。退屈だからと飛ばしてはあかんよな。いろんな立場、いろんな事情で生きるわたしたちが、世界の国々で生きる人たちとともに、よりよく生きるために、憲法というものはあるんだろう。よりよく、って曖昧すぎてよくわからんけど、人間は忘れやすいから、こうして書いておくことは大事なことだ。それからパンを食べてから、憲法の詩を書いてみた。

毛のはえた憲法

朝おきると 歯を磨きながら鏡を見る 今日 憲法の毛が伸びている
さわると ゆびが こそばゆい 抜こうかな とひっぱってみても 抜けない
ひっぱたぶん ほんのわずか 伸びたみたい
鏡のなかで あおあおと にほんの毛が ちっと 耳をそばだている

一家に一枚耳で聴く「詠唱・日本国憲法」は全国CDショップで発売中 (注文番号: ZE00-001)

何がしたいのかよく判らない僕 谷垣賢行

コカールームで使ったアボガドの、種が根をだし始めた頃僕は神務実習に行きだす事とした。神社でのご奉仕だ。その頃から撮影助手のお手伝いや続いているアルバイトにコカールーム。簿記三級試験とみんなで言い出したのになぜか準備役になった下呂温泉。すべてをうまくやる為に朝目覚めてからその日のスケジュールをチエックするような守りしのぐ日々となった。

体を使った為か食欲は増したのだが 睡眠が思うようにとれずについてアルバイト先や実習先での転寝で迷惑をかけただろうと思う。下呂温泉での運転中に寝てたのは 僕をよく知る友人が大きな声をかけてくれた助かったが、危うくも楽しい旅行で天国に行きかけた。

そこで、少し考えたのだが 良かれと思っていた事が、このままでは迷惑をかけるのではないだろうか? 根っこを張らずにふら付いては いつまでたっても信頼されないのではないだろうか? 根をしっかりと張って自分のはじめて芽を出す準備を始めるのではないのか? 今の自分が全然駄目な気がした。

もし自分が強くなれば何かしらの守る事もできるだろう。その視点から聞かれる事もあるだろう。世界が閉じていくのが怖かった僕に違う意識が芽生えはじめた。よく判らないが僕は僕なんだろう…

僕は我慢強く取り組める事を見つけなければならぬ。そして強くなりたい。ならなければならない。理由はない。

アボガドは芽をだし日に日にスクスク伸びていてその姿から負けるものかと自分を奮い立たせる。しかし、最近あまりにも伸びるので家に帰ったら腕立て伏せをするのが日課になりつつある。

詩人の恋人 桑原渥弥

何も浮かばないときがある。好きな女以外のことは何も。
好きな女のこならいくらでも浮かぶ。その女の笑顔、匂い、涙、眉間の皺、身のこなし方。皮膚の滑らかさ、吐息、舌打ち、汗、血、嘘。その女のあらゆるものが浮かびあがってきて、心を締めつける。そんなときには実際にその女と会って、心ゆくまで愛しあうのが一番だが、女の方の都合が悪かったり、元々女がこっちに気がなかつたり、いろいろな理由で会えないことがある。そんな場合、きみはどうしている? まさか、まさか、詩、なんかを書いてやり過ごしているんじゃないだろうか?
もちろんおれはそんな夜には確実に、詩、なんかを書きまくっている。「おまえが欲しい」だとか、「きみのすべてにキッスしたい」だとか、「今日からあなたのことを神と呼ぼう」だとか、「にゃんにゃん」だとか、とても詩とは呼べない恥ずかしい代物ばかりなのだが、そんなことを飽きもせず10日間くらい書きつけていると、ふと、好きな女以外の、何か浮かびあがってくることもある。それは例えば、バケツであったり、キリンであったり、イラクであったり、フルーツポンチであったり、食人大統領であったり、ま、なんでもいい。とにかくその何かが見えたのなら、その瞬間を逃がさず、一気に書き殴っちゃうまいな。11日目の朝には、本物の、詩、なんか浮かびあがっているはずだ。
もちろんどんなにいい詩が書けたところで、好きな女と愛しあえる保証などどこにもないが、まずは生き抜いて、ためえ自身で浮かばれる、つてこと。

8月16日(月)、cocoroomに行く。最近ちょっと女と会っていないので、あたらしい、詩、なんかをたくさん聴いてもらえるとおもう。楽しみにしててくれ。まったく。にゃんにゃん。

today's 10/365

大失恋しか、したことないわ。

採取日時: 2004年6月29日(火) 23:15 採取場所: 堀江・Lime

美人のその人は内側は女だけれど、外見は男として生まれた。いろいろあって、外見も女にした。でも戸籍上では男だから、好きな男ができて結婚できない。恋愛をしても、制約が多すぎて、うまくバランスがとれなくなって、結局いつも大失恋、と呟く。悲しい涙がたまっている、その人、手指を白く透き通らせている。

BOOKS ARCHIVES

20:30start 入場無料(要ドリンクチケット)

声が明日のページをめくってゆく / 朗読:上田假奈代、ウオン・ジクスー
 第15夜 7/20(火)、第16夜 7/26(月)、第17夜 8/2(月)、第18夜 8/9(月)、第19夜 8/23(月)、
 第20夜 8/30(月)、第21夜 9/6(月)、第22夜 9/13(月)、第23夜 9/21(火)、第24夜 9/27(月)、
 第25夜 10/4(月)、第26夜 10/12(火)、第27夜 10/18(月)、第28夜 10/25(月)

P.P.P.P.C.B.N - cocoroom booking night ~

19:00start ¥1,500+1d

- 7/27(火) Echo-light(音響系ギターパフォーマンス)、SUMIDA(坊主二人組)
- 7/30(金) 「scenery/風景」vol.2 イファ&Traditional Speech プロデュース
イファ、diadrum、GAS、エスエフソウルズ・トリオ
- 8/10(火) 想いで迷子(忘れた) 他
- 8/16(月) 闘将「轟原海弥」凱旋ナイト!!
近藤洋一(鉄腕ガムからの刺客)、XOEXAB(牙一族)、
ミキ(はみだしっ子たちの朗読会からの刺客)、いつわらざるもの(名もなき修羅)
- 8/24(火) 悠々劇的(反応反射 速攻即興)、Echo-light(八百屋からの刺客)他
- 9/14(火) P.P.P.P.1年めの奇蹟「平面からの刺客」遂に登場!
中西恵子(インスタレーションという名の朗読) 他
- 9/26(日) 出演者募集中
- 10/9(土) P.P.P.P.C.B.N.スペシャル「reading THE BIG ISSUE」18:00
¥1700(+1d)「THE BIG ISSUE」最新号付き
上田假奈代(詩人)、ウオン・ジクスー(ボイスパフォーマンス)、勝野タカン(歌・ギター)、
セキミナル(nova express)、つき山いよ(パフォーマンス)、LOVEDLOVED(純愛ロック)、
パンツパンパンツ(ジャンクブルース) 他
※収益の一部をTHE BIG ISSUEに寄付します
- 10/26(火) 手廻し活動写真(弁士・小崎泰嗣) 他
出演者募集中

ばえ茶会

20:00start 前売¥1300/当日¥1500/中高生¥1000 すべて+1d

- 8/20(金) vol.19「怪談」
上田假奈代、上田のぞ美、梶谷友美
- 9/24(金) vol.20「生きる仕事シリーズ」ワークヴォイス/デザインと声と唄
数内誠氏と語る
- 10/15(金) vol.21「生きる仕事シリーズ」生まれ育った街で起業する。脱サラ貸自転車屋
小田切聡氏と語る

文学トコトコ

20:30start 1drinkオーダー

- 8/18(水) 「コーエン兄弟とおいしいジュース」~エデンの門~
語り部:タニガキ
- 9/3(金) 「アートトコトコギャルライフ」~最近なんかもおもしろいがあったあ?~
語り部:つばみ&のぞ
- 9/17(金) 「太宰治との日々」~武蔵野に落ちる夕陽は~
語り部:丘田イージマン「生まれてすみません。」

cocoroom 企画

- 9/11(土) 大阪現代芸術祭プログラム「あなたとわたしの間に」
19:00 前売¥2,300(drink別) 当日¥2,800(drink別)
出演:秋田光彦(説法) 内橋和久(音楽) 上田假奈代(朗読)
お問合せ・前売取扱:cocoroom
主催:大阪市・(財)大阪都市協会
企画立案:こえとことばとこころの部屋(NPO法人申請中)
- 8/8(日) プレきものフェスタ~ゆかたでGo×2!! 15:00~20:30/入場料:¥1000(+1ドリンク)
- 9/15-29(水) 日常着物指南(気付け教室) 19:00~/¥1,500

cocoroom cafe 企画

1drinkオーダー

- 9/10(金) 「青島国際ビール祭り報告会兼新世界国際ビール祭り」 19:00~
レポート:上田のぞ美
- 8/19(木) ROCK'nTALK cafe 番外編「映画ええがな2」 20:00~

■ 8/6(金) 踊り場—odoriba— 19:00 ¥1500(+1d)
む革命計画(キド☆ユタカ・長田英将・道上元春・今井慎太郎)

■ 8/7(土) 「Poets On The Road '04」 19:30

前売:¥1000円/当日:¥1500(共に+1d)

高校生以下は前売当日共に¥500(+1d) ※要学生証提示

出演:死紺亭柳竹(喜劇人/過渡期ナイトレーベル主宰)、荒木巴(詩人/芸人)、
服部剛(湘南FM「voicepa!」パーソナリティ)、重兼徹(SSWS決勝トーナメント出場)、
伏谷江利子(詩のボクシング広島大会準優勝)、千明史(a.k.a.chori/from bmw)

主催:千明史(birth mark words)

■ 8/28(土) Spirits Rejoice 18:30 ¥1,500(+1d)

出演:ローライフサーファー(from tokyo)、マディフランケンシュタイン(from tokyo)、
アンギャー(from tokyo)、W.H.S.C.あぶらなぶり/featuring ALI、アズミ、沖至、桑原延享

■ 8/29(日) SXM -cinecova第一回作品上映会 Sなの?Mなの?どっちが好きなの?-

○day side 13:00 ●night side 18:00 ¥500(+1d)

上映作品「3/4の青空」「ばなばな」「さらさらとこぼれおちるもの。」and more...

※night sideのみ、cinecovaメンバーによるトークライブあり。

■ 9/8(水) 沖至(tp) & Michel Pilz (bcl) 19:30 ¥1800(+1d)

共演:川崎知(A,sax)、蛭原幹生(dr)、上田假奈代

関連情報

■ 上田假奈代の詩の学校

7/28、8/11・25、9/8・22(すべて水)以降もつづきます19:30 / ¥1,000

番外 お盆墓地編「それから」 8/5(木) 19:00~ ¥1000

生きることは、であいなおしつづけることかもしれないね

講師:上田假奈代/申込方法・お問い合わせ:ココルーム

会場:應院 http://www.outenin.com/ tel. 06-6771-7641 / 大阪市天王寺区下寺町1-1-27

■ 中高生のための詩のワークショップ「上手い人生なんて、そうそうないけど、いいことばと声を持つ人になってみる

8/9(月)・10(火)・12(木) すべて16:00~18:00/料金無料/講師:上田假奈代

会場:京都芸術センター茶室(南館4F) url. http://www.kac.or.jp

tel. 075-213-1000/京都市中京区室町通錦薬師下る山伏山町546-2

■ 声とことばのワークショップ

7/24、8/7・21、9/11・25(すべて土曜) 13:30 / 参加無料/講師:上田假奈代、飯島秀司

会場:視覚障害者リハビリセンターライトハウス/大阪市鶴見区今津中2-4-37

申込方法・お問い合わせ:ココルーム

■ tamatogi

8/14(土) 19:00/料金:¥2000(1drinkつき)/講師:上田假奈代、若原光彦、桑原海弥

会場:KD japon(ケーディハボン)/愛知県名古屋市中区千代田5-12-7

■ 朗魔

8/15(日) 17:00~/1ドリンクオーダー+カンパ制/出演:桑原海弥、TASKE、上田假奈代他

会場:汚点紫(しみむらさき)/京都市北区堀川北大路西入ル北側

■ VELVET MOON

8/18(水) 19:00 料金:前売¥1800、当日¥2000(ともに1drink付)

講師:上田假奈代(声)、ナスノミツル(bass,sampling)、ryotaro(acc,synth)

会場:Tranq Room/tel. 075-762-4888/京都市左京区浄土寺真如町162-2

Cocoroomでは、寄付をつのっています。

運営のための寄付をつのっています。ご寄付いただいた方には、お名前を「ばえ犬通信」に掲載させていただきます。5,000円/1口 何口でも結構です。

郵便振替 記号01090-5-48059
cocoroom代表 ウエダカナヨ

三井住友銀行 船場支店 普通 2140440
cocoroom代表 ウエダカナヨ

宮前のんさま、田中乗子さまよりお心添えいただきました。

編集後記:突然の天気雨。こんなに激しく降ったらきつねもお嫁に行けないんじゃないから。雨あがり虹のうえにもう一つ虹。もうすぐ夏がくる。(ま)



ばえ犬通信 名古屋地区配布決定!!(協力・加久祐子)



zip556-0002 大阪市浪速区恵美須東3-4-36

フェスティバルゲート4F

tel&fax. 06-6636-1662 tel.06-6636-1612

http://www.kanayo-net.com/cocoroom/

※地下鉄御堂筋線・堺筋線「動物園前駅」5番出口直結

※大阪市営バス「地下鉄動物園前停留所」すぐ

※JR 環状線・関西線「新今宮駅」下車 徒歩すぐ

※南海電鉄本線・高野線「新今宮駅」下車 徒歩5分

※阪堺電軌鉄道「南霞町駅」下車 徒歩すぐ

※駐車場(有料) 営業時間10:00~23:00/60分600円

■ cocoroomをご活用ください

あなたの活動がもっとスムーズに、そして継続できるよう協力体制でのぞみます。企画書をもってお話しください。
 使用管理料:入場料金の折半(基本保証2万円)

■ スタッフ求む!!

びよんびよん(ボランティア)スタッフから、有償スタッフまで。現場感あふれるココルームで、あなたも一緒に活動してみませんか。やりたいことの実現にはいろんな苦労がつきものですが、乗り越えていこうじゃありませんか。

■ この秋、ココルームがNPO法人に

「こえとことばとこころの部屋」として、大阪府に申請中。さらなる体力をつけて、表現活動にまつわる意識の向上をめざします。